

## 研究主題 「Well-being を高めるための道徳教育の研究」

～人と協働し、社会全体の Well-being を高めるために～

埼玉県立新座柳瀬高等学校

### 1 研究主題の設定理由

本校生徒の幸福度調査（令和6年5月実施）では全校平均が 6.08（10段階法）となり、デジタル庁による全国的な若年層の結果と比較するとやや低い実態が見られた。社会の価値観の変化、生徒を取り巻く環境の変化の中で、生徒の Well-being を高めていくことが大きな課題となっており、本研究主題を設定した。また令和6年度の実践では、生徒に講演会等を通して有意義な道徳教育の機会を提供することができた一方で、自己肯定感が低いあるいは将来への不安があるという生徒が依然として一定数いることが明らかになった。このことから、令和7年度は、工夫を凝らし様々な角度から研究主題により一層迫っていく必要がある。

### 2 研究の仮説

- (1) 考え議論する道徳教育の授業実践を通して、生徒の Well-being を高めることができるのではないか。
- (2) 体験的な活動や多様な人々との関わり、社会貢献の機会を通して生徒の Well-being を高めることができるのではないか。
- (3) 講演会等において、他者の生き方や心情を知り、自身の心の在り方を考えることを通して、生徒の Well-being を高めることができるのではないか。

### 3 研究の経過

時 期	内 容
5 月	Well-being 実態調査①・教育実践研修会（教員研修）
7 月	道徳教育授業実践①（「明日をめざして」の活用）
8 月	Well-being 研修会（教員研修）
9 月	道徳教育講演会①（日本理化学工業株式会社への来場オンライン併用型見学） 文化祭における体験的活動・社会貢献活動（注文に時間がかかるカフェ招致等）
1 1 月	道徳教育授業実践②（公開授業）
1 2 月	性教育と Well-being（性教育講演会）・道徳教育授業実践③（「心の絆」の活用） 道徳教育講演会③（3.11 東日本大震災を学びに変える）・Well-being 実態調査②
1 月	道徳教育講演会④（落語の世界） Well-being 実態調査③（生徒・保護者向け学校自己評価アンケート等）
3 月	人権教育と Well-being（人権教育講演会）・分校連携行事の開催（モルック等）

## 4 研究の内容

### (1) 実態調査

生徒の Well-being を高めるための心の在り方として、前野隆司氏（武蔵野大学）が提唱する心の在り方4因子①「やってみよう」②「ありがとう」③「なんとかなる」④「ありのままに」を参考に、実践を継続して行った。生徒の実態把握のため、4因子に関連させた質問を3つずつ計12の質問を作成し5件法にて調査を行った。（7月実施 563名解答）調査結果から、③「なんとかなる」に関連した「自分の将来が明るいと思う」という質問に対する回答、及び④「ありのままに」に関連した「今の自分が好きだ」という質問に対する回答が「どちらともいえない」という中程度以下のネガティブな回答をした生徒が約半数いたため、改善のための方策を検討し実践を行った。

### (2) 文化祭とのタイアップ（企業連携等）

#### ① 日本理化学工業株式会社との連携

文化祭の全校装飾に、日本理化学工業株式会社の製造する「キットパス」を用いた。貴社は障害者雇用を推進し、共生社会のモデルとなっており、装飾に先立ち工場見学を行った。直接来場する生徒とオンラインでその様子を視聴する生徒とに分かれ、全校生徒が製造過程を見学するとともに、障害者雇用を支える企業経営の理念等について知り、様々な価値観や社会の在り方に触れることができた。



#### ② 注文に時間がかかるカフェの招致

吃音症をかかえる若者の接客業への夢を後押しする1日限定のカフェを招致した。生徒は客の立場として関わりながら、吃音症への理解を深めるとともに、「ありのままに」生きることや他者と関わることで前進することができるという生き方について知ることができた。



## 〈様式2〉 埼玉県道徳教育研究推進モデル校 令和7年度実績報告書

### ③ レモネードスタンドの実施

アメリカを発祥とする小児がん支援活動の一つで、レモネードを販売し、その収益を寄付する取り組みを行った。教室内に開いたスタンドには、小児がんに関する現状や治療について紹介するパネルを掲示することで、小児がんについての理解だけでなく、命の尊さについて考えられるよう工夫した。



### (3) 講演会の実施

#### ① 性教育講演会

12月15日（月）に埼玉医科大学の大野美佐子氏を講師に招いて性教育講演会を行い、思春期の心の状態や脳の働きを中心にお話いただいた。事前に集めた生徒の質問に答える形式に加え、動画等を用いて様々な知識を得ることができ、生徒たちが「なんとかなる」と思い「ありのままに」いられるような温かく勇気づける講演会となった。

#### ② 夢と豊かな心をはぐくむ講演会

12月23日（火）に東日本大震災の語り部として活動する佐藤敏郎氏を招き、講演会を行った。防災教育の観点で命を守る行動や日頃の備えについて知るとともに、災害の継承と命の尊さについて考えることができ「ありがとう」という心の在り方について考える機会となった。また彩の国の道徳「心の絆」を用いた事前学習を行い、議論する道徳の授業実践を行った。



#### ③ 道徳教育講演会

1月15日（木）に落語家の桂文ぶん氏を招いて講演会を行った。落語家を志すきっかけや落語の楽しみ方を教えていただくとともに、実際の落語を聞き心温まる講演会となった。生徒たちは日本の伝統芸能に親しみ「やってみよう」という挑戦の気持ちを感じることができた。

### (4) 道徳の授業（公開授業等）

11月26日（水）に公開授業を実施し、学年別の主題を設定し全クラスで道徳教育に関する授業を行った。1年次は「褒める」という行為とその背景にある心の在り方について、2年次では防災教育の観点を取り入れながらジグソー法を用いて「命の尊さ」について、3年次ではメキシコの画家フリーダ・カーロ

## 〈様式2〉 埼玉県道徳教育研究推進モデル校 令和7年度実績報告書

の生涯から「ありのままの自分」について考える授業を行った。ロイロノートを活用することで画像資料を細かく見たり、互いの意見を共有したりしながら、多様な考えとそれを支える価値観の違いを知ることができた。研究協議では参観いただいた先生方から貴重な助言をいただき、指導力の向上が図られた。



### (5) 教職員研修会の実施及び視察関係

#### ① 教育実践研修会

5月9日（金）に日本ほめる達人協会より明壁陽子氏を招いて、「ほめる力で生徒の可能性を引き出す教育的アプローチ」というテーマで研修を行った。生徒との関りに直結する指導力の向上を図ることができた。



#### ② Well-being 研修会

7月29日（火）に上尾市立上平小学校の中島晴美校長先生に講師を依頼し、Well-being についての研修会を行った。学校全体の Well-being を高めるための理論と実践を学んだ。



#### ③ 視察関係（モデル校公開授業参観）

視察日	訪問先	参加者
11月11日（火）	幸手市立幸手小・中学校	委員1名
12月5日（金）	大宮東高等学校	委員他5名
1月16日（金）	新座市立第二中学校	委員2名

## 5 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

2年間の実践で様々な道徳教育の場を提供することができた。実態調査（12月実施 545名回答）では、④「なんとかなる」という心の在り方に関連した「自分の将来が明るいか」という質問に対して、ポジティブな回答が増えた。また「規律ある態度」として、相手の心情を考えた上で丁寧な言葉遣いをするなど優しく素直な態度を育成することができた。教職員においても、研究を通して多様な実践事例や社会とのつながりを共有できたことは特筆に値する。

### (2) 研究の課題

道徳教育の持続可能な指導体制づくりや学校の特色との関連づくり